

しまの情報紙

2010 秋冬号

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



しまはくで開催された忽那諸島の歴史シンポジウム



『忽那ロマン』は
勇気と知恵の宝箱
進め若人
帆に風受けて

忽那諸島を根城とし、西瀬戸の海原を縦横無尽に駆け抜けたわれらが祖先 忽那水軍。海の民としての時代を経て、陸にもその後の一族の生き残りの道を築いた英知の先人は、いまだ多くの謎に包まれた中世史の歴史ロマンの中でひとときわ光り輝いています。

先頃、国の重要文化財に指定され、その価値が広く世に知れ渡ることとなった忽那家伝来の忽那家文書、その忽那家文書を上回る膨大な史料集である二神家文書は共に、専門家からは第一級の研究価値を持つ古文書であるとの評価を得、両書の整理作業に携わる研究者からは、忽那諸島への本格的な発掘調査の声も上がっています。

このことは、今回の松山島博覧会のシンポジウムでも大きく取り上げられ論じられたところですが、今こうして忽那水軍に再びスポットがあたることになったもう一つの要因に、忽那祐三さんの歴史研究書の出版があります。中島出身の祐三氏が、自らの調査研究活動の末に書かれたのは『忽那水軍の実像』という一冊の本。「趣味が高じた」と謙遜気味の祐三氏の忽那水軍調査にかける情熱は、氏の著書で一読に解することができ、その文脈は忽那ロマンへの探究心に満ち満ちています。諸説ある忽那家の居城について、「まだまだ霧の中」と語る祐三氏の目には、尽き果てぬ忽那ロマンへの憧れが映り込んでいるのでしよう。次回作を楽しみにといったところです。

松山離島振興協会では、こうした一連の流れを受け、瀬戸内海を舞台に島の繁栄を築いた先人の、足跡ならぬ『航跡をたどるプロジェクト』を展開するべく、準備を進めています。しまはくで企画展示を行った特別展『東京国立博物館里帰り展』は、多くの島民に、ふるさと帰りの自信と、ふるさと懐古の温もりを与え、島への誇りと慈しみを抱かせたとともに、新たな希望も芽生えさせました。ふるさとを見つめ直すことは、自らの人生を確かめること。このすばらしき先人の教えが、今また、新たな島の羅針盤とならんことを心から願っています。

『しまはく は スタート』

—松山島博覧会エンディングイベントでしまびとが決意—



タイムカプセルに
しまはくの
思い出を詰め込む
子どもたち

平成二十二年十月三十一日、中島総合文化センターでは、足かけ二年に亘って開催されてきた松山島博覧会のエンディングイベントが行われていました。感慨深げにあいさつする実行委員長の田中松山離島振興協会会長。集まったしまびとに対し、感謝と決意のことばをひとことひとこと噛みしめるように発する姿に、多くの関係者から惜しめない拍手が贈られました。

イベント中、しまはくに関わった多くのグループや個人が表彰され、記録映像でしまはくの取り組みを改めて振り返るひとときとなったエンディングイベントでは、九つの島を舞台に多くの市民を迎えた島のおもてなしの様子が、スクリーンいっぱいに映し出されました。「しまはく」のロ



ゴとともに公募で選ばれたマスコットキャラクターの「しまぼう」は、イラストという二次元の世界から、やがて着ぐるみとして子どもたちの人気者となり、さまざまなイベントに登場するなど、一躍、ゆるキヤラ界のニュー・スターとなりましたが、エンディングイベントでは、中村市長から『しまはく観光宣伝大使』に任命され、さらなる大役を担うこととなったほか、島の木工名人の寺家さんからは木彫りプレーのモデルに指名されるなど、しまはくの顔としての存在感を大いに発揮していました。イベントの後半には、子どもたちが未来宣言を行い、タイムカプセルに思い出と共に宣言書を詰め込んだほか、しまはくのメインの活動であった体験メニュー実施の報告が行われるなど、熱く燃えた博覧会を皆で振り返りました。そして、終幕に立ち会ったしまびと全員が、このしまはくをスタートに、さらなる前進を誓い合い、しまはくは一応の幕を閉じたのです。

1 / 3 新市長と面談

平成二十二年十二月、中村市長が愛媛県知事となられ、松山市の新市長には、民放アナウンサー出身の野志克仁氏が就任されました。野志新市長は中村市政の発展継承を標榜され、島嶼部活性化についても自らの公約に掲げるなど、離島の私たちにメッセージを送っていたにいたるように思われます。そこで私たちは早速、新市長をお訪ねし、今後の離島振興について、その思いの丈をじっくりと伺いました。

就任直後のたいへんお忙しい市長にお時間をお取りいただいたのは、一月十三日の午後のこと。松山離島振興協会のあゆみを記したリーフレットを手渡し、これまでの取り組みをお話しすると、市長の口からは『愛ランド里島構想』に託した思いが語られました。「すべての人を笑顔に」という、市長のキャッチフレーズにすべてが集約されるのではないかと思います。島に住むみなさんに元気な笑顔でいてほしいんです」と訴えられた市長の目に嘘はないと感じます。「この人ともう一度がんばってみよう」そんな気にさせられたひとときでした。



市長を訪ねた7人の役員

故 中本安俊氏を偲ぶ…。

当時、由良町内会長であった中本先生は、平成十七年四月から「みんなのまつやま夢工房」のメンバーとして教育に関する提言を唱え続け、翌年四月に松山離島振興協会が設立されてからは、協会理事として、また興居島各町連絡協議会の会長として、教育振興部の活動を中心的に支えられました。由良・泊両小学校の統合と小・中学校の一貫教育のため、教育者の豊富な経験と、だれにも負けない愛郷心で八面六臂に奔走し、その完遂に心血を注がれたことは島のだれもが知るところです。また先生はたいへん信心深い方で、島四国をこよなく愛され、その発展に大きく貢献されました。平成二十一年四月に協会が発行した『歩き遍路マップ』の作成の際には、持ち前のバイタリティで、実に九時間をかけ、自らバイクでの現地踏査を行うなど、口先ではなく、即行動の方でした。



先生のあの笑顔、あの声を見、聴くことは、もう叶いません…

そんな先生が体調の不良を訴えたのは昨年になってから。もともと日頃から弱音を吐く人ではありませんが、元々持病を抱える先生が、後世を大過なく過ごせたのは、ひとえに奥様の支えがあつてのこと。いつも先生が手にしていたびわ茶のボトルを思い出します。食生活管理し、日々、先生の一挙手一投足を気遣った奥様のたか子さんは、改めて自宅の仏前に参った私たちに、うつすらと涙を浮かべた笑みで「主人は本当に幸せ者でした」とおっしゃいました。その言葉に、私たちも先生とのあれこれ思い出し、先生の在りし日を偲んだのです。先生のお酒は、皆を盛り上げ、自分ももちろん朗らか。先生はお酒をさらに美味しく飲むために、自ら育てたウコンを煎じ、親しい人にも配ります。最後まで一教育者であり、皆の世話役であり続けた先生のご冥福をお祈りし、先生の遺志を継ぎ、島の発展に尽くすことをここにお願い申し上げます。



先生の渾身の作『歩き遍路マップ』

ボランティア・スタッフ募集!!『興居島 小富士山の竹刈り』



平成21年春、そして昨年の春と、2年連続で山頂の竹刈りを行った興居島の小富士山。生い茂る竹や雑木を伐採した後には得られる眺望は、上り坂のきつさや、汗だくの作業の疲れを吹き飛ばすのに十分な美しさをたたえています。初年度は東側の高浜方面を刈り込み、昨年度はそれに加え西側の釣島側に挑戦した竹刈り隊のメンバーたち。今年度は西側の眺望をさらに北へと切り拓き、中島方面の眺望を確保することを目標としています。思わず「結果かな～」と唸るはず。

協会では、広く島外からもボランティア・スタッフを募集しますので、お申し込みください。4月3日、日曜日、8時30分に泊公民館に集合です。参加者にはお弁当とお茶を支給します。あの美しい眺めをぜひ一緒に作りましょう。

第6回総会／5月に開催

その設立が4月15日であったことから、これまで、その前後の土・日曜日に総会を開催してきましたが、年度替わりは何かとあわただしいものです。そこで第6回の総会は5月の開催とさせていただくことといたしました。総会では事業報告並びに決算報告、新年度事業計画並びに予算のほか、協会の5周年記念事業の『木婚式』の記念品贈呈式も執り行うこととしています。

会員のみなさんはもちろん、賛助会員のみなさんにぜひご参加いただきたいと思います。

伊予弁／事務局長が掲載中

愛媛新聞のコラム『伊予弁』は、県内のさまざまな方が、月1回の執筆で計6回の連載をされる地方面の人気コーナーです。平成18年12月から翌年5月まで田中会長が執筆し、最終回で「しまはく開催への思い」を語ってから3年半。平成22年12月9日から、俊成事務局長による執筆が始まっています。しまはく終了後の島の行く末への思いを綴ったコラムをぜひご覧ください。

【掲載スケジュール】

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ① 12.9 | ② 1.20 | ③ 2.17 |
| ④ 3.17 | ⑤ 4.14 | ⑥ 5.12 |

【地域産業部】

中本先生がこしらえるウコンは、きれいな山吹色。でもやっぱり、「良薬は口に苦し」ですが、その効き目は「翌日も酒を美味しくさせた」と聴きます。こう言うと、左党の味方の弁となって、世の奥様方に叱られそうですが、そこは先生に免じてお許しいただきたいと思います。

先生の瓶詰ウコンは、しまはくのオープニングイベントでお目見えし、結局、それが最後の出品となりましたが、先生の皆を喜ばせたいという思いは、決して消えることなく、多くの人の心に留まっていることでしょう。

《お問い合わせ・お申し込み》

事務局長 俊成雅直

TEL997-2189



【観光振興部】

中本先生は、「島四国」とともに、「船踊り」を心から愛した人でした。若い衆らが、汗だくで練習する姿を喜んで、褒めて、応援するんですよ。言い換えたら、島をよっぽど愛しとったゆうことですよね。島に生きて、子らを育てて、みんなを元気付けて、島に身を捧げた人生だと思います。

興居島の中本先生。先生のことをぼくはいつまでも忘れません。一緒に酒を酌み交わしたことも、バカを言い合ったことも…。先生、ありがとう。いつまでも島のことを見守ってください。本当にありがとうございました。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 石本憲三

TEL961-2033



【しまづくり部】

夢工房の時から教育班で一緒に、先生からはいろんなことを教わりました。先生が、興居島の小学校統合、小中一貫教育の準備に奔走されたことは、先生にとってもたいへん思い出深い仕事であり、「先生にしかできないお役目じゃなかったのかな」と今でも思っています。

先生は、とてもとても普通の先生らしからぬ人であり、でもやはり、教師が天職の方でありました。人をこよなく愛し、平等で、高らかな志を持ちつつも、反面、人間らしい生き方を迷いなく選ぶ人でした。きっと、来世でも教師の中本先生。今は安らかに眠りください。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 内藤久司

TEL998-0606



総会には賛助会員のみなさんもお越しください!

<http://iland-matsuyama-hp.web.infoseek.co.jp/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆